

2026 年 3 月 9 日

記者各位

京セラ株式会社

## 快適なパワーナップを提供する AI 仮眠起床システム「sNAPout<sup>®</sup>」 仮眠の必要性・効果を可視化する覚醒度計測機能アプリケーションを開発

京セラ株式会社（代表取締役社長：谷本 秀夫、以下：京セラ）は、有償実証実験を進めている仮眠起床 AI システム「sNAPout<sup>®</sup>」（スナップアウト）において、スマートフォンのカメラ映像から覚醒度を推定し、仮眠の必要性や仮眠後の効果を短時間で可視化するアプリケーションを開発しましたのでお知らせします。本アプリケーションは、筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構（IIIS）特任准教授の阿部 高志 氏が設立した株式会社 ヴィジライズ（以下：VigiRise）のカメラ映像から覚醒度を計測する技術を活用しています。

本機能を sNAPout<sup>®</sup>のスマートフォンアプリに追加し、2026 年夏よりアップデートを開始します。

# sNAPout



覚醒度計測中の画面イメージ（左）と、仮眠後の効果表示画面（右）

### ■開発の背景

sNAPout<sup>®</sup>は、血流量センサを搭載したイヤホン型デバイスと、AI を搭載したスマートフォンアプリで構成され、リアルタイムで高精度に睡眠段階を解析し、最適なタイミングでの起床を促す仮眠支援システム<sup>※</sup>です。

日本人は睡眠時間が短く、日中の生産性向上を目的としてパワーナップ（短時間仮眠）が注目されています。一方、企業や学校などの組織では、仮眠の導入効果を客観的に示す指標が乏しく、制度化や環境整備が進みにくいという課題がありました。

そこで京セラは、仮眠前後で「眠気がどの程度軽減されたのか」を定量的に把握できる指標

の確立を目指し、VigiRise の技術を活用して、短時間で覚醒度を推定し、その変化を可視化するアプリケーションを開発しました。

これにより、従来の“最適な仮眠”の提供に加え、仮眠前の必要度判定から仮眠後の効果検証までを一貫して提供するシステムを実現します。企業や学校などの法人においても、仮眠導入の妥当性や有効性を客観的なデータとして示すことを可能とし、仮眠活用の普及に向けたシステム・環境づくりを目指します。

※sNAPout®のシステム詳細については以下をご覧ください。

<https://www.kyocera.co.jp/newsroom/news/2025/002701.html>

## ■新機能の特長

### 1. 仮眠が必要な状態かを客観的に把握

国際的に覚醒度評価の指標として用いられている「精神運動覚醒検査（Psychomotor Vigilance Test：PVT）」を基準に、スマートフォンのカメラ映像から覚醒度を推定します。従来の PVT では、反応速度のテストなど 10 分程度の時間や作業負荷を要するという課題がありましたが、今回開発した sNAPout®のアプリでは、約 1 分間の動画撮影により、まぶたの開閉動作などから覚醒度を推定します。これにより、利用者が仮眠を必要とする状態かどうかを短時間で簡単にスクリーニングできます。

### 2. 覚醒度に応じて最適な仮眠を推奨

覚醒度の推定値が一定の基準を下回った場合には、sNAPout®の血流量センサ搭載イヤホン型デバイスと AI 解析を活用し、最適なタイミングでの起床を促す仮眠を推奨します。

利用者ごとの状態に応じた判断により、仮眠の必要性の可視化と最適な仮眠の提供を一体で実現します。

### 3. 仮眠後の回復度を可視化

仮眠後にも同様の測定を行い、覚醒度や認知機能の変化を定量的に評価します。これにより、「どの程度回復したのか」を客観的に把握でき、仮眠の効果を利用者および法人が直感的に理解できる形で可視化します。

## ■開発体制

本機能は、VigiRise が有する覚醒度検知および PVT 反応速度推定に関する研究知見・AI アルゴリズムと、京セラの生体センシング技術、アプリケーション開発技術、UI 設計を組み合わせ開発しました。

VigiRise の覚醒度推定技術と、京セラのデバイス設計およびアプリ実装技術を融合することで、短時間・低負荷での覚醒度評価を実現しています。

■ご参考：本機能の利用イメージは、紹介動画（約 2 分）をご覧ください。

<https://youtu.be/iPxY7QGNUhg>

\*「sNAPout」は京セラ株式会社の登録商標です。

## ■報道機関からのお問い合わせ

京セラ株式会社 広報室 本社 Tel 075-604-3514(直)／東京 Tel 03-6364-5503(直)